

SYOHEI ニュース 令和8年8月号

「誤解されている」心療内科の本当の意味

前沢診療所所長 鈴木 順

みなさんは「心療内科」と言われたら、どのような診療科を想起しますか？多くの方は精神科との違いが判らないのではないのでしょうか。本当の心療内科は内科なのです！



心療内科とは「心理療法内科」を略したものとされています。心理療法を日常診療に活かす内科という意味です。これは身体機能の司令塔である中枢神経と身体の中核である末梢との関係性を科学する学問である心身医学に基づいており、これを実践する医療が心身医療、その臨床現場が本来の心療内科なのです。平成8年に心療内科は標榜可能な診療科目として厚生省（当時の厚生省）に認可されました。しかし、心療内科を標榜し始めたのは少数であった心療内科医よりも、大多数を占める精神科の開業医でした。精神科・神経科と看板を出すよりも心療内科という響きがマイルドだからでしょうか。精神科の敷居が低くなるのは良いことですが、このために心療内科の意味が誤解されてきました。

大学病院の内科外来で私は心療内科を専門としていました。しかし、患者さんの多くは精神疾患でした。そこで現在は前沢診療所での標榜科名を内科のみにしています。本来の心療内科は心身症（身体の病気）を主として診療する科です。心身症とは身体疾患の中で、その発症や経過に心理社会的因子が密接に関与する病態を意味します。ストレス性の胃潰瘍や気管支喘息がこれにあたります。糖尿病などの生活習慣病の多くは心身両面からの介入が重要かつ有効な心身症です。詳細はお勧めの書籍『かかりつけ医に必要な心療内科の知識』をご覧ください。

心療内科の起源は昭和35年に九州大学で誕生しました。そして開祖の池見西次郎教授が師として仰いでいた九大の小野寺直助先生（消化器内科の権威で後に久留米大学総長）は、なんと

今私が働いている奥州市前沢のご出身です！さらに当時、前沢の隣にある水沢町の病院（現在の総合水沢病院の前身）が危機的状況にあったため、小野寺教室の一番弟子であった私の曾祖父が病院を立て直すために、博多から見知らぬ岩手の地に派遣されたことが私のルーツなのです。人生のご縁は不思議なものです。

国民健康保険前沢診療所の概況

所在地

〒029-4208 奥州市

前沢字立石 180-1

TEL

0197-41-3200

FAX

0197-41-3201

ホームページ

https://www.city.oshu.iwate.jp/maesawa/iryokyoku/byoin_shinryojo/1/index.html

E-mail: shinryousho-ma@city.oshu.iwate.jp

診療開始年月日 平成10年5月18日

標榜科 内科・呼吸器内科・循環器内科

許可病床数 一般 19床(休床中)



主な設備の概要

電子カルテ・医事コンピューターシステム

- ・全身用X線CT診断装置・X線画像撮影診断装置
- ・X線骨密度測定装置・超音波診断装置
- ・生化学自動分析装置・全自動血球計数器一式
- ・心電計・除細動装置・調剤装置

保健福祉活動

- ・国保・社保特定健診・国保30代健診・長寿健診
- ・一般検診・肝炎ウイルス検診・骨粗鬆症予防検診
- ・前立腺がん検診・各種予防接種

大谷翔平選手の成績ボード（R8.7.22 現在）

打者：97試合 打率287 本塁打22 打点60 盗塁6
投手：14試合 勝利8 敗戦2 防御率1.79 奪三振95
8.7.8 MLB通算300号本塁打を達成
8.7.13 日米通算350本塁打達成

『SYOHEI ニュース』は市医師養成事業関係者の情報紙です。
令和8年7月23日発行 奥州市医療局医師確保推進室
〒023-0053 奥州市水沢大手町3-1 TEL0197-25-3833
市医療局HPにバックナンバーを掲載しています。 第76号

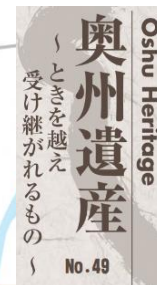
献膳の儀

おいかい

(六日入白山神社)

=旧六日入村(前沢白山)=

広報おうしゅう 平成26年10月号 奥州遺産No.49



- ① 行列が境内に到着して鳥居をくぐる天狗役
- ③ 献膳宿から神社まで厳肅に進む献膳行列

- ② 献膳宿の配膳壇に並べられた「盛立」と「献花」
- ④ 六日入白山神社の拝殿。ここで奉納が行われる

収穫間近となった前沢白山地区の田園風景の中を、^{かみしも} 袴姿の行列が厳かに歩みを進める。市指定無形民俗文化財の六日入白山神社献膳の儀は、153年前から毎年欠かさず行われている。

献膳は、五穀豊穡の祈願や感謝を行う祭事。1カ月ほど前から、小麦や大豆などの穀物を大枠に貼り付け、料理を模した^{もつたて}「盛立」と紙製の「献花」が作られる。当日は、献膳宿で神事を行った後、総代などが行列を組み、盛立と献花を白山神社まで運び奉納する。

献膳の儀は、旧暦の8月1日が例祭日。昔は講中で行い、約1週間は精進して準備に当たる厳しいものだったが、戦後は集落持ち回りに移行している。

継続を願う地域の思いにより、今年から9月の第3土曜日に行うこととした献膳の儀。脈々と継承されてきた伝統は、今後も絶やすことなく地域に受け継がれていく。